

亀田地区公民館運営審議会会議概要

亀田地区公民館

実施年月日	第 6 期 第 2 回 亀田地区公民館運営審議会 平成 30 年 3 月 12 日(月)実施		
会 場	横越地区公民館 研修室B	傍聴人	0 人
出席者 (委員)	石澤正明 (議長)、石田正文、大沢美子、小見直樹、斎藤 裕、坂井幸恵、 田村智江 (副議長)、塚田美智子、森知之、横木春三 <敬称略>		
出席者 (事務局)	亀田地区公民館：伊藤義則 (館長)、辻崇 (主任)、笠原園子、阿部香苗 小林弥生、佐々木葉月 曾野木地区公民館：樋口栄子 (館長)、山際結城 横越地区公民館：池田忠 (館長)、高山佐和子		
議 題	(1) 平成 29 年度事業中間報告について (2) 平成 30 年度事業計画 (案) について *平成 30 年度新潟市公民館事業の基本方針 (3) その他		

審議された議題について、以下に記載する。

1. 開会

議長あいさつ

2. 議事・報告事項

(1) 平成 29 年度事業中間報告について

- ① 亀田地区公民館 (説明者：笠原、阿部)
- ② 曾野木地区公民館 (説明者：山際)
- ③ 横越地区公民館 (説明者：高山)

――― < 質 疑 応 答 等 > ―――

(坂井委員)

前回依頼した事業報告書への決算等の欄の追加をいただきありがとうございました。

各館とも少ない予算の中で職員や関係者のおかげで、本当によい事業が行われたことに感謝いたします。利用者としてもお世話になっておりますので、この場をお借りしてお礼申し上げます。

亀田と大江山の間接報告について、参加した事業もたくさんあるのですが、ほとんどが、この紙面の数字での判断となってしまい心苦しいところはありますが、まず感想から。

2 番の活動協力員実施事業の「かめだ散歩とはじめての俳句」について、募集人数に対して応募人数も多く、費用も抑えられ、サークル化も図れたということで、よい内容だったと思います。

10 番の児童期家庭教育学級は、昨年度と同じく今年度も応募人数が多く、亀田で毎年注目度の高い事業であると感じました。

11 番の父親学級は、前回の会議で開催数について議論されましたが、江南区では亀田のみ実施の事業だと思います。新潟市でも実施館は少ないので、参加者が少ないから開催しないのではなく、企画の内容や回数を検討して、学びの場として継続してほしいと思います。

ここから質問ですが、5 点ほどあります。

まず、7 番と 8 番のゆりかご学級で、6、7 月に開催した 2 期の参加者数が少なかった理由について

て伺います。4期は2期より参加者数が多いのに、決算額が2期より少なかった理由は何でしょうか。

次に重点化の4番、青少年の生きる力を育む事業で、事業計画には「子ども映画祭り」がありましたが、報告にないのはなぜでしょうか。

17番の子ども体験事業は、予算に対してかなり支出が少なかったのですが、その理由は何でしょうか。

20番の江南区文化会館合同事業たまたまKOBUは、初の試みだったと思いますが、成果はいかがでしたか。

最後に、大江山の1番、大江山地域学事業は3月が開催月で今月実施ですが、もともと予算が付いていなかったと思いますが、50人募集でどのような内容になるかを教えてください。

(事務局)

順番にお答えします。

はじめに、ゆりかご学級の募集人数に対して参加者が少なかった点については、明確な理由はありませんが、時期的なもの、あるいは、市報やチラシ等による広報が対象者に届いていないと考えられるので、次年度は更に改善していきたいと思います。

予算と執行額の関係については、報告が1月31日現在ということで、4期が終了していないため、最終的には、ほぼ同額になります。

次に、子ども映画祭りについては、当初、公民館事業として実施する予定でしたが、これまで文化会館事業として実施していたことから、今年度も文化会館の事業として実施しました。

次に、子ども体験事業については、午前、午後の日とおした事業を行ったのですが、消耗品などの経費がかからなかったためです。また、3月31日に新大生と一緒に事業を行います。講師となる新大生はボランティアで事業の企画運営をしてくれるということで、執行額が抑えられています。

次に、江南区文化会館合同事業たまたまKOBUについては、新規事業として、公民館、図書館、郷土資料館、カフェで連続事業として取り組みました。3連休の初日という日程や周知が足りないこと等から、参加者は少なかったと思いますが、参加した方々には楽しんでいただけたと思います。参加者は子どもが大半でしたが、図書館利用者の参加も多かったと思います。次年度の開催では、開催日程の精査、広報の強化などを行い実施したいと思います。

最後に、大江山1番の地域学事業ですが、当運営審議会の田村委員からも積極的に関わっていただき3月10日に実施、32名の参加がありました。経費は、報償費のみの支出です。

(田村委員)

参加者は男性が22名で女性が10名でした。公民館事業は女性の参加が圧倒的に多いですが、男性をいかに公民館に振り向かせていくかという、一つのきっかけになったと思います。

(坂井委員)

たまたまKOBUに私も娘と一緒に参加させていただきましたが、楽しかったので来年度も楽しみにしています。

ゆりかご学級は、他館とともに市報に掲載されましたが、区だよりには掲載しましたか。

(事務局)

区だよりには掲載していません。

他にはチラシを配布しています。

(坂井委員)

各回のテーマは全館統一で、亀田らしさを出すのは難しいですね。

次に、曾野木と両川について感想として、少ない予算の中で各事業の費用をやり繰りしていること

を感じました。

9番の子どもきもだめし大会、12番の高齢者いきいき教室について、昨年度より大幅に参加者が増えましたが、運営には職員に加え活動協力員、ボランティアなど、多くの方に協力いただいたと思います。それは日ごろから曾野木の職員の皆さんが地域の方々と交流を深める努力をしているからだと思います。そして、企画の良さもあったと思いますが、受講生の口コミで参加者数が増えたと改めて感じました。

人気があり、参加者数が増えるのはいいことだと思いますが、子どもきもだめし大会に関しては、子どもの参加者が増えることで、安全確保のための大人のスタッフも比例して必要になってくることは、今後の課題ではないかと思います。

1点質問ですが、両川の1番、夏休み子ども映写会が、昨年度は45人の参加があったようですが、今年度は5人と少なかった理由を教えてくださいませんか。

(事務局)

両川地区は、放課後児童クラブ「ひまわり」に呼びかけて前年度開催した関係で、「ひまわり」の半数以上が映写会に来てくれましたが、平成29年度については、公民館開催、学校でのチラシ配布で行いましたが、「ひまわり」の子どもたちが校舎の外へ出られないということから参加者減となりました。

(坂井委員)

子ども映写会の対象は少年となっていて、「ひまわり」だと小学生になると思いますが、江南区文化会館の映画祭りのように、対象をもう少し広くすることは可能ですか。

(事務局)

小学生に限定したものではなく、公民館にもチラシを貼り出し、保護者の方も一緒に参加可能ということで開催しています。

(坂井委員)

「ひまわり」の子どもたちが校舎の外に出られないのは今後も変わらないと思うので、参加者を増やすための検討をお願いします。江南区文化会館で実施している子ども映画まつりは、年齢も幅広く、上映内容も年齢別にいろいろあります。例えば、幼児だと映画館はお金がかかることや周りに迷惑が掛かることから、気兼ねしてしまうが、公民館や文化会館の事業は気軽に来られるような内容が良いと思ったので、内容なども含め検討してほしいと思います。

次に横越ですが、19番の女性セミナーは開催されましたか。

(事務局)

今年度は女性セミナーという形ではなく、21番の文化講座「女性のための若返り講座」という形に振り替えてみました。少し年齢の高い方、普段、公民館に来られないような方を対象に土曜開催として、年齢的に40代、50代の方を対象に開催しました。

(坂井委員)

女性セミナーは、事業内容にあるように、人権やジェンダーなど女性の自立についての講座で、公民館だからこそできる内容ではないかと思います。今年度の公民館の概要にも、役割の明確化ということで、公民館でなければできない事業を実施するという記載がありました。ですから、女性セミナーが計画にはあったけれども実施されなかったことは少し残念に思います。

前回の審議会で、池田館長が公民館の使用者数がだんだん減ってきて、サークル活動に発展するような事業が必要という説明をしていたと思います。確かにその課題を解決するためには、サークル化に繋がるような文化講座を実施することも必要かと感じたので、一概にいい悪いとは言い切れないで

すが、少ない予算で難しい選択だと思いました。

今回、女性セミナーの開催を公民館のホームページで確認しましたが、横越、曾野木とも開催時期が終了していても、未記入のものがありました。サイトの更新はだれがやっているのですか。市の広報担当がやっているのですか。

(事務局)

内部的なことですが、ホームページのシステム変更などから更新が止まっていました。明日、これまでの更新を行う予定ですので、ご確認いただければと思います。申し訳ありませんでした。フェイスブックとホームページに関しては、このような状況となっております。

(坂井委員)

曾野木についても確認をお願いします。

予算が少ない状況で、職員の皆さんにやり繰りをしていただいているなかで、お金の話ばかりで申し訳ありませんが、もう一点、横越の2番の婚活「蕎麦打ち体験」と、8番のゆりかご学級が定員割れしていますが、費用として予算と決算が同額で全部使われています。特にゆりかご学級に関しては、保育費用が大半を占めると思うのですが、保育した子どもの内訳を教えてください。曾野木は受講した成人と保育を実施した乳幼児に項目が分かれているので内訳が分かりやすいです。

(事務局)

蕎麦打ちについて、独身の男女を集めることは非常に難しく、新潟市でも各種婚活事業を行っていますが、今回の実施は募集50人に対し参加24人で半分以下ですが、昨年が10人程度でしたので、倍くらいになっています。内容としては参加無料で独身の男女と一緒に蕎麦を打ち、食べて、いろいろなゲームを行うというものですが、参加者確保が難しい事業です。

昨年までは公民館の男性職員とコミュニティ協議会の男性だけで事業を企画していたのですが、今回はコミュニティ協議会、公民館ともに女性が入った企画となったことが、参加者増につながったのではないかと考えています。来年度に向けても、女性の力を存分に発揮していただいて、さらに参加者を増やしていきたいと思っています。

(事務局)

ゆりかご学級について、応募人数19人、参加者数19人となっておりますが、保育がほぼ定員となっておりますので、予算が全部使われています。

(坂井委員)

フォーマットを曾野木のように成人と乳幼児に分けていただけると分かりやすいと思います。

(事務局)

承知しました。

(田村委員)

私も3館のいろいろな講座に参加しています。とてもいい講座があり、いろいろな人に出てもらいたいと思うものがたくさんあります。どの公民館も頑張っていることが伝わってきます。ありがとうございます。

その中で、私が問題だと思っているものは、亀田地区公民館ですが、どうも合併を引きずっている講座があると毎回感じていました。もう合併も終わり、どこも平等になっているのですけれども、お亀楽縁は地域の茶の間で、大江山にも地域の茶の間がありますが、大江山公民館には一切その予算がありません。亀田地区公民館には予算づけがあります。それからさらに大きいのが、かめだ音楽祭や亀田地区市民文化祭の予算がたくさんついています。

同じことを大江山でも行っています。大江山には、なぜ予算がつかないのかと思関係者に聞きま

したら、大江山は各家庭から 500 円程度徴収していました。そして住みよい地域づくり委員会で集約し、そのお金で文化祭とスポーツ大会の予算を団体に配当しているということでした。それに比べ、亀田地区公民館はずっと町でやっており、その名残りで予算がついているのだと思います。ほかの館もそうなのですが、曾野木地区公民館はほとんどなく、今回の予算もないのですが、亀田は依然としてついています。

予算がないと言っている段階ですし、全体の平等から考えると、やはり市民の中に不公平感を感じている方もいます。大江山地域は公民館だけでなく、行政に対して不満を持っているというか、恩恵にあずからない地域だということで、両川地区もそうかもしれませんが、不満を持っている方が多くいます。そういう面からも、これからの公民館は大改革をしなければいけないと思います。予算がどんどん削られて、私も中央の会議に出てきて分かるのですが、予算どのように組み替えていくかというのは、これからの課題にしてほしいと思います。これらは今までの伝統もあるので、一気に予算を切るわけにはいかないと思いますが、予算について住民と話し合い、公民館の現状を説明することはとても大事だと思います。それが一番大切だと感じています。亀田地区公民館には、ぜひ、改革をやっていただきたいと思います。

次に、児童期の講座ですが、私は児童期の子どもを持っているわけではありませんが、参加させていただきました。亀田、横越も事務局と相談して参加させていただき、とてもいい講座だと思いました。いいところは、私たちは、おじいちゃん、おばあちゃんですが、若いママたちとお話ができることです。私のような年代の人も一緒に参加してもらえると、自然と多世代交流ができます。参加者を限定せず、興味のある方、おじいちゃん、おばあちゃんも「どうぞ」というような働きかけをしていくと、交流ができて、若いママたちもお年寄りの話を聞いたり、お年寄りも若いママたちの考えを聞くという交流の場になります。今後はこれらの働きかけをしてほしいと思います。

次に父親学級も、参加人数が 8 人くらいで少ない人数ですが、アンガーマネジメントの回はたくさんの方が集まっていました。夜間でしたが、私も参加しました。とてもいい講座で、多くの方に来てほしいと思いました。女性の参加もあり、この講座に参加していない方も参加していました。やはり大事なのは、こういうオープンな講座で、連続講座よりオープンな講座を多くし、いろいろな方に参加してもらえるよう、限定しないということがとても大事だと思います。父親学級だから父親だけではなく、興味のある人は一緒にどうぞという、オープンな姿勢がこれからの公民館には求められているのではないかと感じました。アンガーマネジメントは横越地区公民館でも実施されましたが、ぜひ、いろいろな方に多世代にわたって受けていただきたい講座だと思いながら、受講しました。

次に、亀田地区公民館には厳しいことを言いますが、活動協力員の講座は、もう少し検討した方がいいと思います。とてもいい企画ですが欲張りすぎています。というのは、私も、まち歩きの講師として参加しましたが、参加者、講師が少し不満を漏らしていました。第 1 回は、講師とまち歩きをして俳句を作りましたが、第 2 回は講師が体調不良から欠席となりました。俳句を主体にするならば、俳句の基礎から学ぶような講座にし、まち歩きを主体にして地域を知るのであれば、それを主体にする講座とし、両方を合わせて行うということ自体にとっても無理があると思いました。活動協力員の方々が一生懸命考えた講座でしたが、公民館の職員も積極的に入り、さらによい講座を企画してほしいと思いました。私も、まち歩きをした時に距離が長く、1 回目で懲りたと感じました。

(事務局)

当初は講師の街歩きの同行は考えていなかったのですが。

(田村委員)

人材育成という意味では、活動協力員が講座を企画実施することはとても大事なことで私も思っ

ています。講座の持ち方をもう少し考えられると、もっと良くなると思い、感想を述べさせてもらいました。

もう一つ、聞きたいのですが、公民館の出前事業の本質は何なのかと考えました。今回は2つの事業を行っていますが、横越地区公民館では住民対象の出前講座の実施はありませんでしたか。

(事務局)

横越は防災教育が、先日終わったばかりで、載せていませんでした。

(田村委員)

出前講座は、ふれあいスクール事業の一環として行っているようですが、亀田中学校のフラワーアレンジメント、これは住民主体で学校を会場に参加していることがわかりますが、丸山小学校の場合は、子どもが主体で、おそらく地域の方々には呼びかけていないのではないのでしょうか。参加希望者が6人しかいませんので。出前講座というのはどういう趣旨なのかをお伺いしたいと思います。

(事務局)

多くのアドバイス、どうもありがとうございます。最後の出前事業なのですが、学・社・民の融合ということで、ふれあいスクール公民館出前型という事業を行っています。これは亀田地区公民館に限ったものではなく、曾野木地区公民館、横越地区公民館、さらに、他区でも学校との連携で行っています。

亀田地区公民館では、発言のとおり、中学校は校長先生の協力もあり、地域の学びの拠点を目指し、公民館と中学校と一緒に実施してきました。何年か実施してきた中で、さらに広がりがつくられたという状況です。他の学校についても、今年度から各学校にうかがい話し合いを持ちましたが、学校のスケジュールやスペース的な問題で開催が難しいところもありました。

丸山小学校は、児童主体になるかもしれませんが、地域住民にも学びの場を作りたいということで、全体への周知ができなかったようですが、次回以降につなげていくためにも開催しました。これを参考に、公民館と学校で出前事業の活用を検討する第一歩という位置づけで、ご認識いただきたいと思っています。

(田村委員)

募集人員が6人ですから保護者だと思います。住民に周知されていませんし、どういう人たちに声をかけたのかもわかりませんが、学校本位になるのではないかと。それであれば学校主体に、学校をサポートする方向に切り替えた方がいいと思います。出前講座で住民を主体にしたいというのであれば、しっかり周知しないと中途半端になるのではないかと感じました。

(坂井委員)

生涯学習のことで言えば、対象者が学生で、場所が学校だったというだけで、公民館が持つ事業としてはよいと思うのですが、例えば、どんな職業であるかを知ることができたと思いますし、参加した子どもたちの親も間接的に公民館を知ることができるので、そんなにだめなことではないと思いました。

(田村委員)

参加者対象がだれかということですよ。

(事務局)

ご意見は当然で、子どもを対象にするならば学校教育の中に入っていく部分が大きいと思いますし、逆に地域にウエイトを大きくすると社会教育になると思うのですが、今回は地域住民対象というようにできませんでした。ご指摘のように地域に広く呼びかけができなかったということは次回以降、地域へのご協力を願っていききたいと思います。

(横木委員)

私も公民館事業に多く携わっているわけではありませんが、年2回の運営審議会で報告を聞き、少ない予算の中で、これだけの事業を行っていることについて、非常に頑張っていると思います。ただ、今後の方向性としては、各地域のコミュニティ協議会がしっかりと活動していくことからすると、重点化の中では3番の家庭における教育力向上を支援する事業や6番の現代的課題を探る・・・になると思います。これ以外は他との共催をしていく形になるのではないかと思います。そうでないと、予算がまばらになってしまい重点化されていかないと思います。新潟市も予算がないと言っていますし、増えていくとも思えないので、減る一方だということからいけば、主催、共催をはっきりさせて、コミュニティ協議会との共催にして、公民館のノウハウを使い一緒に行うなどすれば、スタッフの少ない中でも、中身の濃いものになるのではないかと思います。

事業の廃止や大幅に変更することは難しいかもしれませんが、やらないと変わらないので、どこかで決断せざるをえないと思います。

(2) 平成30年度事業計画(案)について

- ① 亀田地区公民館 (説明者: 阿部、佐々木)
- ② 曾野木地区公民館 (説明者: 山際)
- ③ 横越地区公民館 (説明者: 池田)

--- < 質疑応答等 > -----

(石田委員)

平成20年度の中間報告、また、平成30年度の事業計画も各公民館で焦点づけられた説明があり大変良かったと思います。これまでは総体的だったのですが、聞いていて大変分かりやすいと思いました。ありがとうございました。

1点、質問と意見です。先ほども出ましたが、亀田地区公民館の平成30年度計画の20番、芸術に親しむセミナーで、内容が平成29年度はカメラでしたが、落語ということで、平成30年度の計画がありました。踏まえて、今年度は落語だったらどうだろうという創意工夫だと思います。横越地区公民館の2番の婚活「蕎麦打ち体験」は、先ほどの報告で女性の力を活用して「さらに」という説明があったのですが、女性の力を活用したときに、婚活ですので、例えば、若い女性、私は学校に勤めています、分からないことは子どもに聞くと、大体こういうことなのだという答えがあり、子どもから学ぶことが多いのですが、そうすると、女性にニーズを聞くということが一番のポイントになるのではと思います。蕎麦がお互いのコミュニケーションを取る一番中心になるのがいいのか、蕎麦でこのような参加状況であれば、同じ食べ物でパスタがいいのか、スイーツがいいのか、あるいは食べ物だけではなくスポーツなど、その時に事業名に婚活何々事業ではなく、婚活「蕎麦打ち体験」と、蕎麦打ち体験ありきになっているので、この内容は変えられないのかと思います。これまでの経緯や、ここまで何年もやっている歴史は分かりませんが、女性の力を活用といったときに、きれいな爪がそば粉で美しくなくなると思った時、はたしてそれが適切なのかと感じました。

(小見委員)

平成30年度予算の中で、横棒になっているセルと空欄のセルがあるのですが、これはどういった

意味があるのでしょうか。

(事務局)

亀田地区公民館から説明させていただきます。まず、数字が入っているのは公民館の予算を入れています。横棒については、公民館以外の予算、あるいは予算を必要としない、職員が行っているもの。他は部屋を貸し出すような学習室があります。

(小見委員)

昨年度の予算だけを見ると3地区で大体400万円くらいでしょうか。今回、新潟市も全市レベルの予算を4パーセントも減らしたということで、十何年を振り返っても無いような削減ですけれども、実際に公民館事業にあてがわれた新潟市の予算は昨年度に比べてどのくらいの低減だったのでしょうか。

(事務局)

公民館を管理する施設管理費での減額、事業費での減額がそれぞれにあり、また、各事業によっても、削減率がばらばらです。力を入れなければならないところは削減率を小さくということはありませんが、総じて事業については概ね1割まで届かないくらいです。施設の維持管理については、これまで他で使っていた部分を工面しながら、これもおおむね1割くらいの減額となっております。当然ですが、事業もできるだけ切り捨てということではなく、先ほどお話があったように共催など、各種団体と協力関係を持ちながら続けられる事業を続け、あるいは自立に向けて進められるものは自主開催ができるような形をとっていきたいと考えています。

(小見委員)

ありがとうございます。全体を見たときに相当厳しい財源だというのが第一印象です。そのような中、限られた予算をどういったところに重点配備していくかというのは非常に重要なところだと思っています。

先ほど石田委員からも質問がありましたが、婚活が横棒になっています。これは公民館事業の予算だけではなく、他の事業と連携し予算を流用しながら対応していくというやりくりの中で、横バーになっているのだと思います。いずれにしろ相当の工夫をしながら、昨年よりも厳しい中で実施していかなければならない、非常にご苦労がいろいろあると思いますが、ぜひとも頑張ってもらいたいと思います。

(坂井委員)

横越地区公民館は事業費が前年比3割くらい減っていると思うのですが。

(事務局)

大きいものは、婚活の21万円が亀田地区公民館に予算づけとなっていたり、公民館で持ち回りの予算があるためです。

(坂井委員)

亀田地区公民館の10番の家庭教育講演会が黒塗りになっているのはなぜですか。

(事務局)

番号のところに網掛けになっているということでしょうか。これは2番、3番も同様ですが、今年度の新規事業ということです。2番のコミュニティ・コーディネーター育成講座は、昨年まで横越で行っていたものを、新年度は亀田地区公民館と曾野木地区公民館、横越地区公民館の3館で一緒に実施する新規事業になります。

また3番の茶の間の学校は、先ほど説明をしましたが、同じく新規事業です。10番の家庭教育講演会は、これまで幼児期家庭教育学習を実施していましたが、平日の日中に限らず、さまざまな開催場面を設けて、いろいろな方から受講していただけるような形を目指しての事業です。幼児期家庭教育

学級は曾野木地区公民館と横越地区公民館で安定的に行っているため、これは限られた予算の中で、できるだけ大勢の方に学習機会を設けるということで新規事業としました。

(坂井委員)

講演会等を行うのですか。

(事務局)

基本的には講演会を予定しています。開催場所も学校やコミュニティ協議会をはじめ商店街や会社関係等を含め実施していきたいと思います。

(坂井委員)

幼児期は昨年定員割れしていたものが、今年は応募者数が多かったので、実施方法を変えるのが少し残念な気がします。特に母子分離で行っている講座で、そのメリットなどによって普段は公民館に来ない人たちが公民館に来ることで、公民館を知るきっかけとなったり、仲間づくりの場という意味でもメリットがあったので少し残念です。しかし、私も企画に携わることで、他の方々から話を聞いたりしますが時代背景に沿った形で提案していくことが必要で、難しいと思いますが進めてほしいと思います。

(田村委員)

1点目は、平成30年度の計画も平成29年度事業を多く引き継いでいるので、これからは事業の大胆な見直しや、重点化、主催、共催をはっきりさせていく必要があると思います。

2点目は、亀田地区公民館は実施しますが、地域の茶の間などの連携事業です。社会福祉協議会や区役所との連携をこれからは考えていかなければいけないと思います。事業の見直しや公民館のあり方を考えていくよいチャンスではないかと思うので、ぜひ、これらの観点でも見直しを図ってほしいと思います。

3点目は、以前から伝えていますが、これからは無償ボランティアを大いに取り込んで活動していただくという方向性に公民館も向かわなければいけないと思います。例えば、郷土資料館では私も活動していますが、無償でのボランティアを募集しています。職員の方は一生懸命やっております負担も多いと思うので、企画などに関わるボランティアなども考えてほしいと思います。

職員の方は少ない人数で本当に大変だと思います。ご苦労さまです。

(石澤議長)

ほかにありませんか。

なければ、平成30年度事業計画(案)についてはこれで終了します。

私から、昨年11月14日に公民館運営審議会の正副議長会議がありましたので、簡単に報告させていただきます。中央公民館の五十嵐館長から新潟市全体の公民館の現状、予算等の厳しい状況、公民館の職員数など組織体制の説明がありました。

つぎに、受講者の講座に対しての費用負担について意見聴取があり、私は受益者負担でいいのではないのでしょうかという意見を言いましたが、所得のばらつきや乳幼児期の家庭教育に力を入れたいということもあり、項目別に考えたほうがいいのではないかという意見がありました。いろいろなことで自由意見を出し合い結論は特にありませんが、これを参考にしながら、今後の公民館を考えていきたいということでした。

今後の公民館のあり方について、黒埼南部公民館では公民館の維持管理あるいは保守点検ということでコミ協が指定管理の方法で受けているが、これらもいいのではないかという意見がありました。小須戸地区公民館はいわゆるまちづくりセンターにしましたが、黒埼南部公民館とは反対に、公民館のままの方がよかったのではないかという意見もありました。そのほか、公民館はどういう施設なの

か、利益優先なのか、もうからないといけないのか。そうではなく、社会教育の場なので職員が必ず必要など、様々な意見交換を行いました。

その他の報告では、小針青山公民館が開館 20 周年を迎える、豊栄地区公民館の移転、西蒲区の峰岡、漆山地区図書室を廃止するという報告がありました。

以上、簡単ですが報告します。

田村委員から補足がありましたらお願いします。

(田村委員)

議長の報告のとおりです。いろんな問題が話し合われましたが、これからの公民館のあり方を一つ示唆している方向も少し見えてきたと思えました。子育て支援をしている部分は絶対に外せないし大事にしていかなければいけない、特に一人親に対してです。また、公民館に来られる親はいいと思うが、本当に必死で働いて、これら学習の機会にめぐまれない親がたくさんいるということは愚策だという意見も出ていただいたのがとても心に残りました。やはりそういう方々をいかに救っていくか、社会福祉協議会と連携しながら、講座を受けられない親にどうサポートしていくかということも一つの大きな問題ではないかと感じました。

私の意見としては、いい講座を実施すれば必ず人は集まります。お金を出してでも集まります。お金を取っているところもあるので、高額ではなく 100 円、200 円の寄付をお願いするようなことをしている講座もありますが、これからは、受たい人がお金を出してでも受ける方向になっていくと感じています。いろいろな意味で公民館も変わって行かざるをえないのではないかと感じた会議でした。

(石澤議長)

ありがとうございました。

事務局から補足がありましたらお願いします。

(事務局)

せっかくの機会ですので、講座の有料化、あるいは指定管理業務委託、さらに、亀田地区公民館と江南区文化会館のような二枚看板、複合施設について、皆さんの意見をお願いします。

また、本日配布の公民館のパンフレット、名刺など公民館のロゴとマークの活用、公民館のPRについても意見、アドバイスをお願いします。

(石澤議長)

ただいまの報告で、何かご意見、ご質問はありますか。

(塚田委員)

早いころに公民館のバッジをいただいて、今日、初めて着けさせていただきました。やはり、自分自身がこういうことに携わっているということで、人と人とのつながりを大事にしていくことがいかに大事かを感じさせていただきました。予算のことは十分に発言があったので、ある予算の中でいかに大勢の人を巻き込むかがとても大事だということで、今日の内容を自信を持って皆さんに伝えていけるような自分にならなければいけないということを痛感しました。

つぎに、今までは亀田地区公民館での会議で、本日、横越地区公民館に初めて来たのですが、時々場所を変えてこのように会議をすることも新しい試みでよかったと感じました。

(坂井委員)

公民館はカルチャーセンターではないので、高額な実費は辛いと思います。まだ先ですが年金生活になったときに、一人暮らしでどこかに行こうという気持ちになれるのが、公民館であってほしいと思います。私が年老いたときもそうなってほしいと思います。

亀田中学校の出前講座のフラワーアレンジメントに参加させてもらったのですが、内容もよく、しかも、知り合いの花屋さんにも内容と金額を話したら、安いと言っていました。普通ではできないとも言っていました。また、行ったことのない中学校にどきどきして入り、たまたま帰り際が生徒の休み時間で、「こんにちは」と元気よくあいさつしてくれたことが、とてもうれしかったです。このような事業は公民館がやってくれないとなかなかできないのではないかと思います。しかも安い参加費で実施してくれました。今後も続けてほしいと思います。

働いていて、子どものために何かしたいけれど、なかなかできない親の学びの場としても残っていてほしいと思います。参加費が高くなると、だれも来られなくなると思うので、ますますひとりぼっちになるというか、そういう場所があるのがとても大きいと思います。きれいごとかもしれませんが、そういう場所としてずっと残して欲しいと思います。

(小見委員)

先ほど、館長から4つの項目、課題が明示されましたが、坂井委員がおっしゃるように、公民館の役割は非常に、人々が幸せに生きていくために欠かせない要素だと思っていますし、高齢者が自立して元気に健康寿命を伸ばしていくため、あるいは、若い子育て世代で親元から遠く離れて相談相手もいないような人たちが身の回りのことを相談できたり、あるいは子育ての心配を解消してくれたり、非常に大きな意義があると思います。それを今後も踏襲していかなければいけない一方で、財源のバランスという意味では、公民館活動の重要性は認識しているものの、そこばかりに重点投資していくわけにはいかない、やはり金額自体が削減されてくるも今後の潮流だと思っています。

そのような中で、先ほど、民間委託、いわゆる指定管理者という話が出ましたが、指定管理者を考える際に二つあって、一つは、建物そのものの維持管理、箱物のメンテナンス、壊れたとき、あるいは雨漏りがしたら補修するといったことなどは、民間委託などによって10パーセントくらい低減できるとか、メリットはあると思います。一方で、活動内容に対する民間委託が非常に厄介で、難しいハードルがいろいろあると思います。ただ、一方では民間のノウハウをいかに利用できるかという視点は欠かせないところだと思います。

例えば、いろいろなイベント、各種市民祭りなど、大江山地区でも文化祭などを開催していますが、この費用をまかなう為におこわや団子を売ったりして少しでも費用に充てたり、いろいろな工夫をしています。コストそのものの削減という工夫も民間の知恵を出してもらえばできると思います。このように、サービスを低下させずに、いかにコストを低減できるかが非常に大きな課題だと思います。民間の考え方や知識等を活用しながら運用していく時代に、今後、シフトしていかなければいけないと思っています。県外での先進的取組みの実態を実際に見て、経験しながら、新潟でも考えていかなければいけない局面に来ているのだと思います。

(石澤議長)

ほかになれば、これで正副議長会議関係の報告は終了させていただきます。

事務局から他に報告等ありましたらお願いします。

(事務局)

特にありません。

(石澤議長)

委員の皆さんから、他に何かありませんか。

(森委員)

学校関係の立場から。先ほどからいろいろな形で公民館との協働について、亀田中学校で実際に行ったものについても話がありましたが、保護者世代よりもさらに上の世代の方々に学校を利用してい

ただ、こと、そして、亀田中学校自体、また、建物自体が全部変わったので、学校を知ってもらうということが非常に有効だったと思います。

子どもたちも褒めてもらえることは大変うれしいことなのですが、地域にそういう意味で広く発信できるということでは、学校の利用もしていただけると大変ありがたいと思います。

先ほど横越地区でボランティアという形で、地下道清掃についても学校と連絡を取っていますか。

(事務局)

はい。中学校と小学校にチラシを配ります。

(森委員)

年間行事を立てる段階で、やはり学校関係も、今、いろいろな行事が入っていますので、それについても早め早めに行事計画を出していただくと学校も大変ありがたいので、また、声かけをよろしくお願いします。

(3) その他

特になし。

4. 閉会

副議長あいさつ